９．Macintosh からの利用法

目次

1 はじめに **1**

2 UNIX マシンへの login:NCSA Telnet の利用法 **2**
2.1 NCSA Telnet の起動 2
2.2 うまく行かない場合 4

3 電子メールの読み書き:Eudora の利用法 **5**
3.1 Eudora の起動 5
3.2 電子メールの送信 6
3.3 電子メールの受信 7
3.4 受信した電子メールの保存 8
3.5 Eudora の高度な利用法 9

4 ファイルの転送:Fetch の利用法 **11**
4.1 Fetch の起動 11
4.2 Fetch 利用上の注意点 15

5 UNIX プログラム出力結果のグラフィックス表示 **16**
5.1 グラフィックス出力結果をプリントアウトする 16
5.2 グラフィックス出力結果を画面上で確認する 16
5.3 グラフィックスを直接 Macintosh の画面に出力する 16

1　はじめに

この資料では, Macintosh を使って HGC のサーバー UNIX マシンにアクセスするためのソフトウェアの利用法について, 使用例に基づいて説明します. ここで説明しているソフトウェアは,

NCSA Telnet Macintosh UNIX マシンに login するために用いる端末ソフトウェアです.

Eudora Macintosh から直接電子メールを読み書きするためのソフトウェアです.

Fetch Macintosh と UNIX マシンとの間で, ファイル転送を行なうためのソフトウェアです.

の３種類です.

また, Macintosh 上で, UNIX のプログラムが出力したグラフィックスを確認するための手法についても紹介しています.

注意

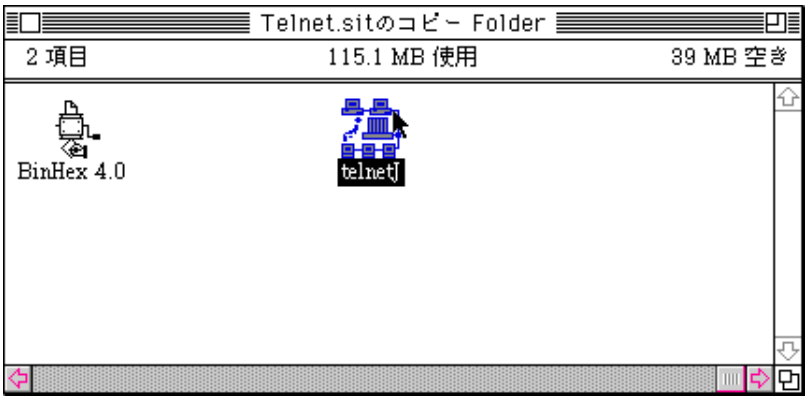
この資料で説明したソフトウェアを動作させるためには, １０章「Macintosh から利用するためのソフトウェアのインストール法」に従い, 前もって Macintosh 上に該当するソフトウェアをインストールしておく必要があります.

2　UNIX マシンへの login:NCSA Telnet の利用法

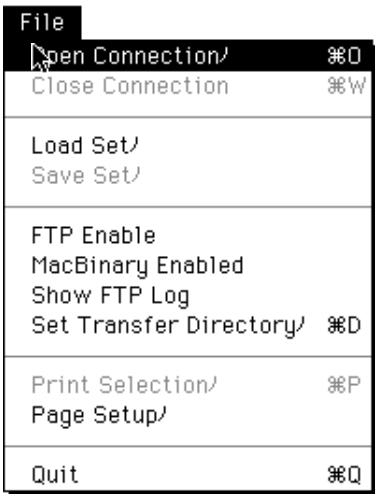
2.1　NCSA Telnet の起動

NCSA Telnet を利用して UNIX マシン hgc.ims.u-tokyo.ac.jp に login してみます.

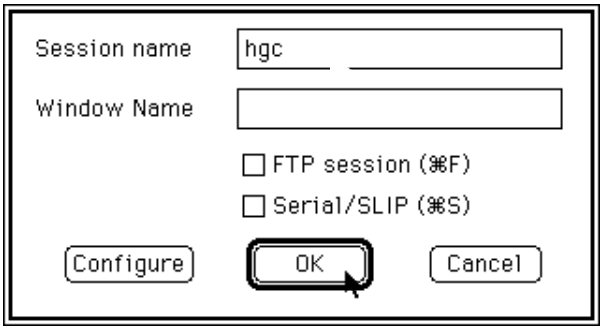
Step. 1　telnetJ をダブルクリックして NCSA Telnet を起動します.



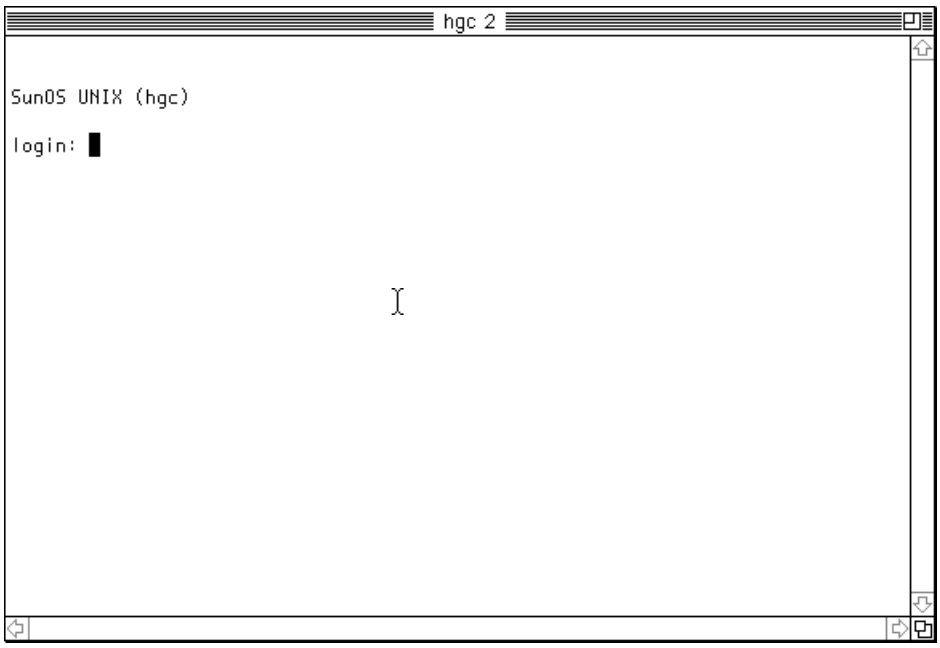
Step. 2　File ⇒ Open Connection を選択します.



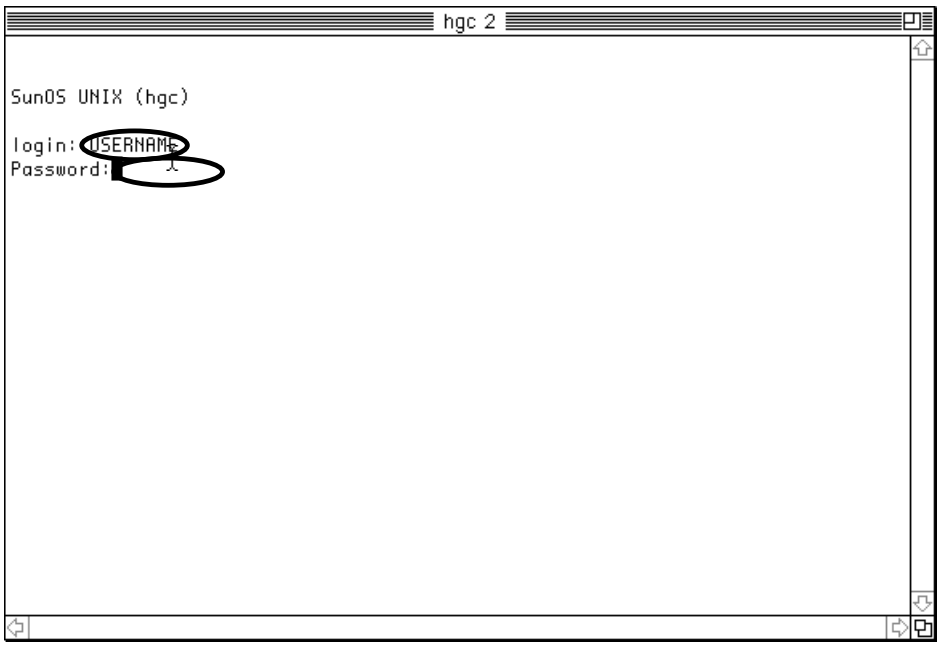
Step. 3　Session name に hgc (または hgc.ims.u-tokyo.ac.jp) と入力し, OK ボタンを選択します.



すると下のような window が現れ, hgc.ims.u-tokyo.ac.jp に login 可能になります.



Step. 4 hgc.ims.u-tokyo.ac.jp でのユーザー名とパスワードを入力して login します. なお入力したパスワードは表示されません.



終了は File ⇒ Quit です. NCSA Telnet の詳しい使い方についてはマニュアルを参照して下さい. マニュアルのある場所は NCSA Telnet をインストールした人に確かめて下さい.

2.2 うまく行かない場合

以上がうまく行かない場合は, UNIX と Macintosh 接続のための基本ソフトウェアである MacTCP のインストールが正しく行なわれているかどうかを確認してください. そのためには, MacTCP のインストールをした人と連絡して以下に列挙した操作を試してもらって下さい.

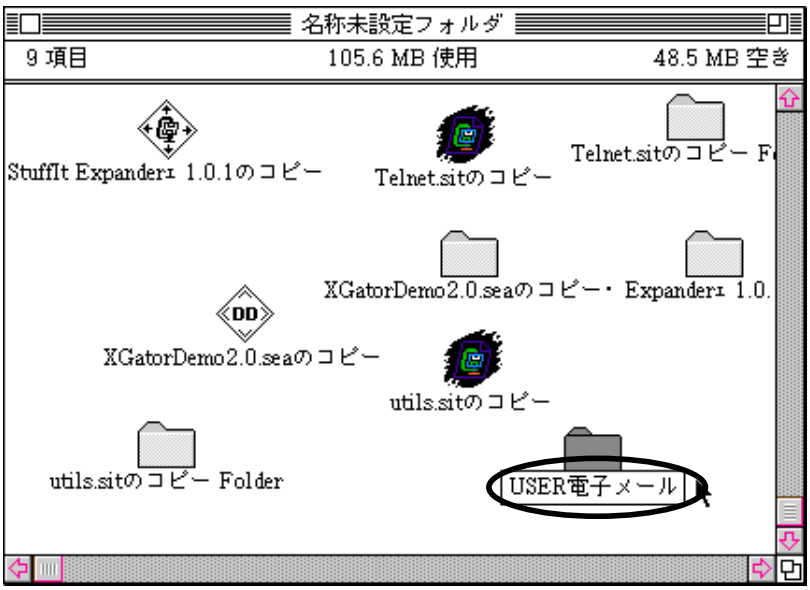
- Session name 入力で hgc の代わりに, hgc.ims.u-tokyo.ac.jp と入力してみて下さい.
- Session name 入力で, hgc の代わりに, 133.11.196.1 と入力してみてください. これでうまく行く場合は, MacTCP の nameserver information の設定が間違っている可能性があります.
- host で, MacTCP の設定における Gateway Address と同じ番号 (たとえば 133.11.146.1) を入力して login プロンプトが返ってくる場 合は, MacTCP の Network Class および Subnet Mask の設定が間違っている可能性 があります.

3　電子メールの読み書き:Eudora の利用法

3.1　Eudora の起動

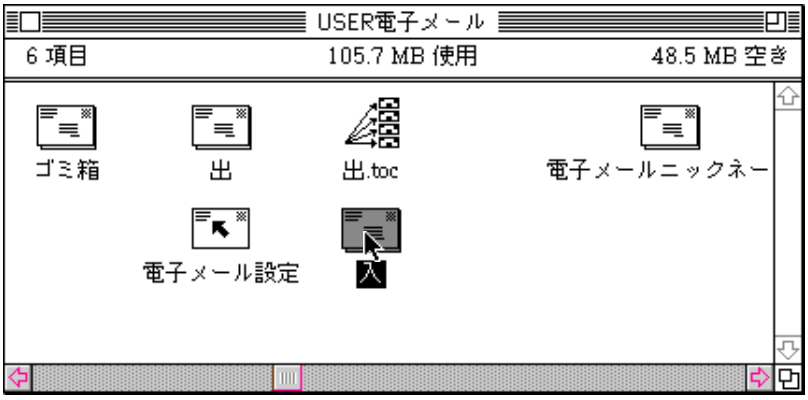
Eudora を使って, Macintosh 上で 電子メールを読み書きしてみます.

Step. 1　「⟨ 自分の名前 ⟩ 電子メール」というフォルダーをダブルクリックして開きます.



「⟨ 自分の名前 ⟩ 電子メール」というフォルダーがない場合, Eudora が正しくインストールされていない可能性があります. Eudora をインストールした人に相談して下さい.

Step. 2　「⟨ 自分の名前 ⟩ 電子メール」フォルダー中の, 「入」というファイルをダブルクリックすると, Eudora が起動します.



Step. 3 下の図のようなダイアログが表示されますので, HGC の UNIX マシン (hgc.ims.u-tokyo.ac.jp) におけるパスワードを入力します. なお入力したパスワードは表示されません. また, 通常は, “ 注意 !” 以下のメッセージは表示されません.

上のようなダイアログが表示されない場合, Eudora が正しくインストールされていない可能性があります. インストールをした人に確かめて下さい.

また, 正しいパスワードを入力しても「パスワードが間違っています」と表示される場合も同様にインストールをした人に相談して下さい.

3.2 電子メールの送信

Step. 4 「メッセージ」⇒「新規メッセージ」を選択して, GenomeNet の電子メールサーバーにテストメールを送信してみます.

GenomeNet の電子メールサーバーでは, 利用者からの質問電子メールを受け付けると, 自動的に回答電子メールを利用者に返送します. ここでは, 電子メールサーバーに, 使用法を質問する電子メールを送信します.

Step. 5　下のようなウィンドウが現れます.

- To: (受け取り人) の欄は “dbget@genome.ad.jp” と記入します.
- From: (送信者) の欄には, 自動的に自分の電子メールアドレスが挿入されているはずです. そうなっていない場合, Eudora が正しくインストールされていない可能性があります. Eudora をインストールした人に相談して下さい.
- 点線より下の本文には “help” とだけ記入します.

送信を選択して電子メールを送信します.

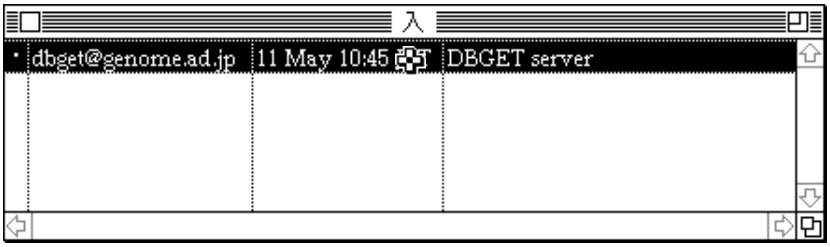
3.3　電子メールの受信

Step. 6　しばらく待つと, 以下のようなダイアログが現れて, 返事の電子メールの到着を通知しますので, OK ボタンを選択して下さい.

いつまで経っても (30 分程度) 返事が返ってこない場合, 次のようにして下さい.

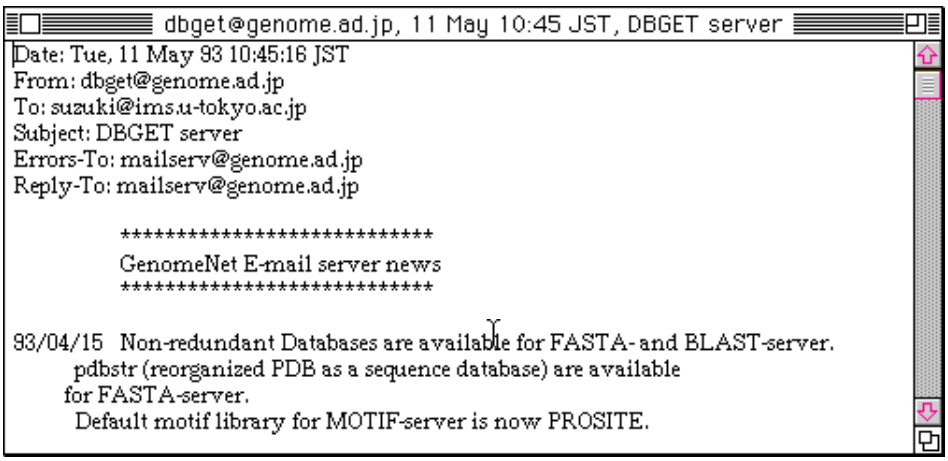
1. ファイル ⇒ メールのチェック を選択してみてください. これで返事が受けとれる場合は, スペシャル ⇒ 設定変更を選択して, 「新着チェックの頻度: 」が 0 以外の適当な値になっているかどうか確認して下さい.
2. 上の操作で返事が受けとれない場合は, スペシャル ⇒ 設定変更「返送アドレス」の設定が自分の電子メールアドレスになっているかどうか確かめて下さい.
3. 上記をやってもわからない場合は Eudora をインストールした人に相談して下さい.

Step. 7　下のようなウィンドウが現れます. この行をダブルクリックして下さい.



Step. 5 で宛先のアドレス “dbget@genome.ad.jp” を正しく入力していない場合は, エラーを通知する電子メールが 返ってきます.

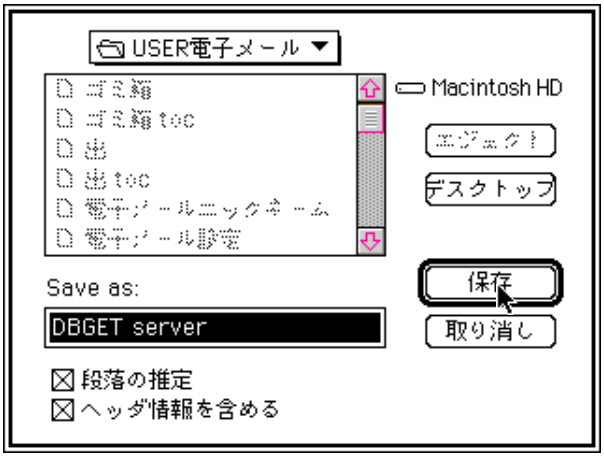
Step. 8　次のような返事の電子メールが表示されます.



3.4　受信した電子メールの保存

Step. 9　受信した電子メールはメールボックスというファイルの中に保存されています. この電子メールをテキストファイルにコピー保存してみます. ファイル ⇒ 新規保存を選択します.

Step. 10　下のようなダイアログが出てきますので, フォルダーとファイル名を指定して保存ボタンを選択します.



Step. 11　Eudora を終了します. 複数の人間で一台の Macintosh を利用する場合は, 使い終ったら必ず Eudora を終了するようにしましょう.

以上で Eudora の利用法について簡単な説明を終ります.

3.5　Eudora の高度な利用法

Eudora では, 上に説明した簡単な使い方の他に,

- Multi Finder 上で立ち上げバックグラウンドで電子メールの到着を 監視する.
- 受け取った電子メールに返事を出す (メッセージ ⇒ 返事).
- 受け取り人 (例えば, dbget@genome.ad.jp) を ニックネームで登録し (スペシャル ⇒ ニックネーム), メニューから受け取り人を選択する (メッセージ ⇒ 新規メッセージを ▷).
- Macintosh 同士で グラフィックファイルやフォーマットつきのワープロファイルを交換できる (メッセージ ⇒ 書類の添付).
- 複数のメールボックスを作成し, 受けとったメールを用途別に分類して 保存する.

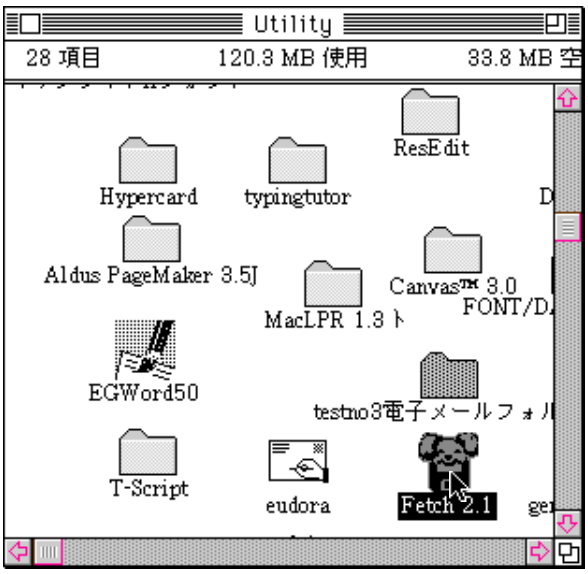
等の使い方ができます. 詳しくはマニュアルを参考にして下さい (マニュアルのある場所は Eudora をインストールした人に確認して下さい).

4　ファイルの転送:Fetch の利用法

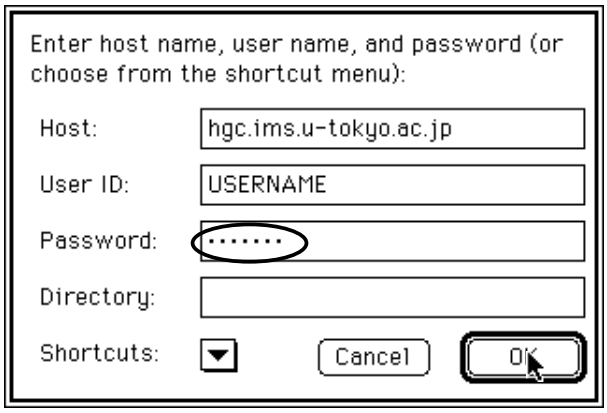
4.1　Fetch の起動

Fetch を利用して UNIX と Macintosh との間でファイルの転送をします.

Step. 1　Fetch2.1 をダブルクリックして起動します.

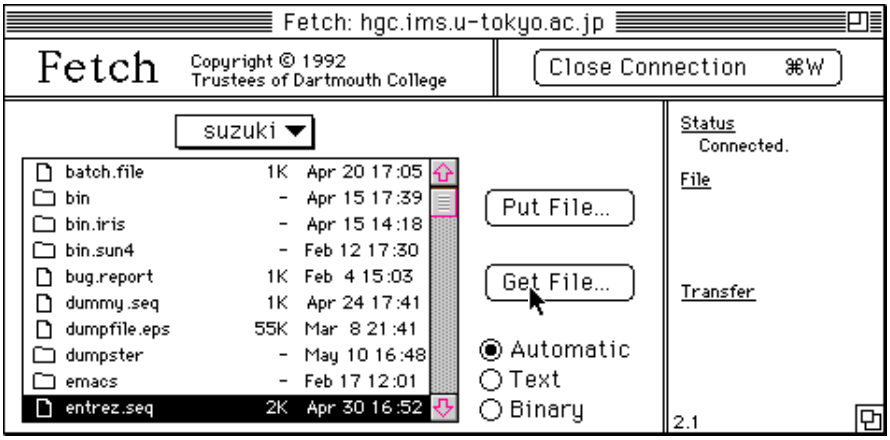


Step. 2　下図のような画面が表示されるので, サーバーマシン hgc.ims.u-tokyo.ac.jp 上での自分のパスワードを入力して OK ボタンを選択します. ここで, USERNAME は, サーバーマシン上での自分のユーザー名です.



上記のように表示されない場合は, 上の例と同じになるようにテキストを修正して下さい. この節の動作を確かめた後に, Fetch をインストールした人に連絡して下さい.

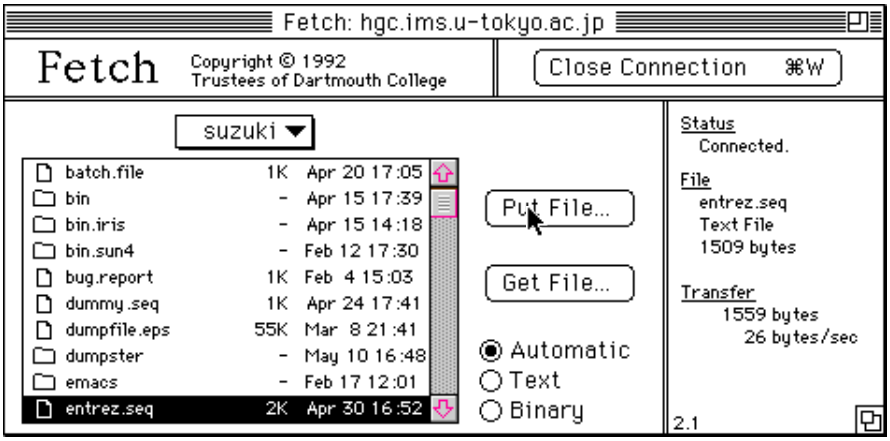
Step. 3　下のようなウィンドウが表示されます. UNIX 上のファイルを Macintosh 上に転送してみます. ファイル名 (この例では entrez.seq) を選択して, Get File ボタンを選択します.



Step. 4　このようなダイアログが表示されますので, 格納フォルダー, ファイル名を決定した後に Save ボタンを選択します.

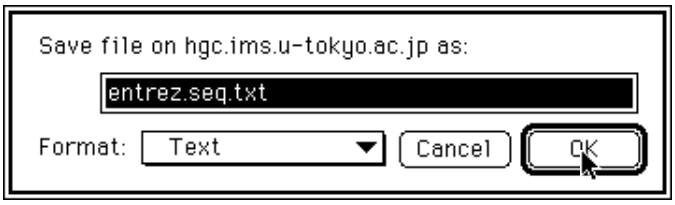
UNIX から Macintosh へのファイル転送が行なわれます.

Step. 5　次に, Macintosh 上のファイルを UNIX に転送してみます. Put File ボタンを選択します.

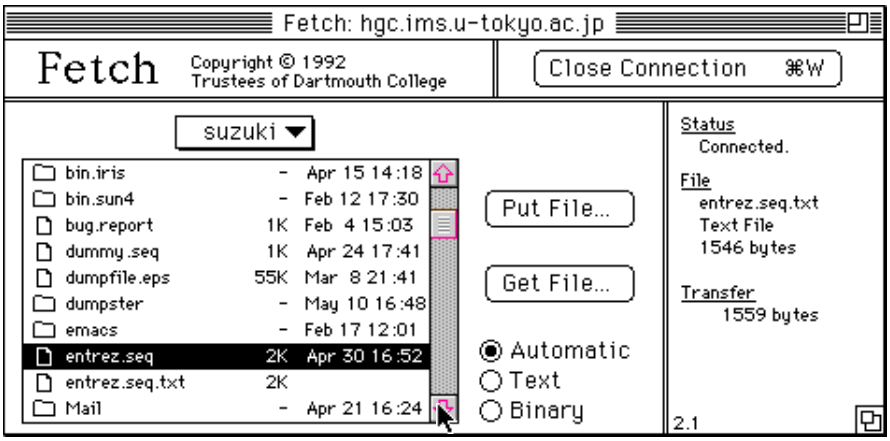


Step. 6　下のようなダイアログが表示されますので, ファイルを選択した後,「開く」 ボタンを選択します.

Step. 7　下のようなダイアログが表示されます. 必要ならばファイル名を変更した後に, OK ボタンを選択します.

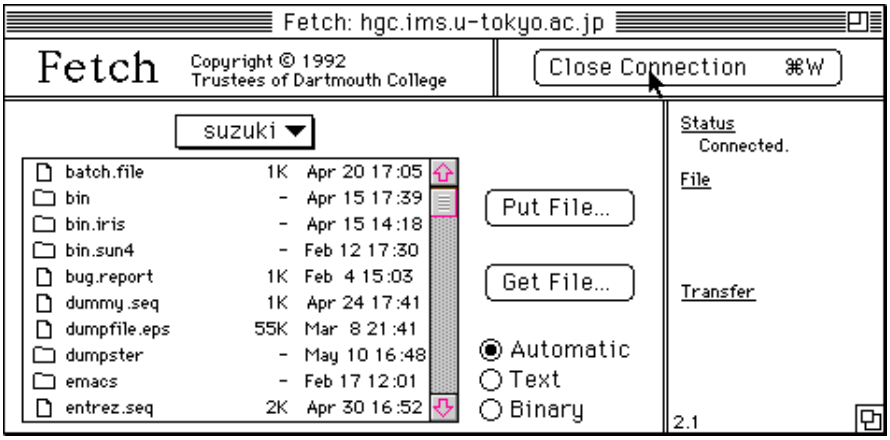


Step. 8　Macintosh から UNIX へのファイル転送が行なわれます.

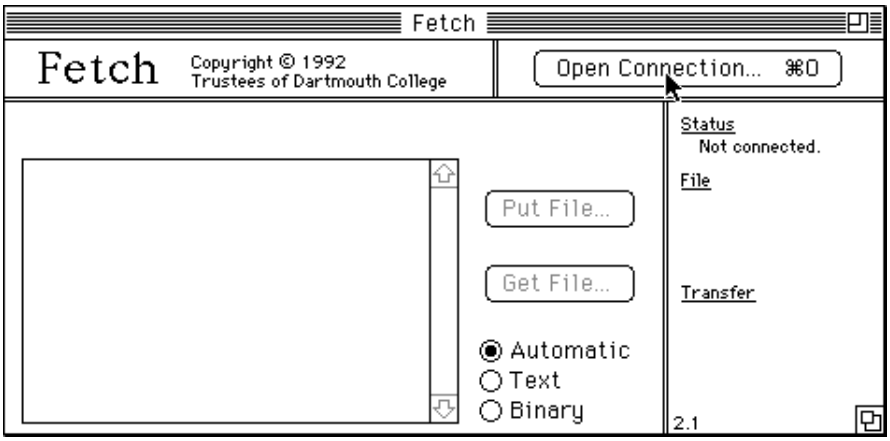


Fetch の main window に, 転送されたファイルの名称 (この場合 “entrez.seq.txt”) が追加されます.

Step. 9　必要なファイルの転送がすべて終了したら Close Connection ボタンを選択し, UNIX マシンと Macintosh との接続を切断します.



Step. 10　再接続したい場合は, Open Connection ボタンを選択します.



4.2 Fetch 利用上の注意点

Fetch でのファイル転送においては以下の点に注意して下さい.

- Macintosh の アプリケーションで作成したファイルを UNIX に転送する場合は, 必ずテキスト形式で保存したファイルを転送して下さい. テキスト形式でないファイルを転送しても, UNIX 側で取り扱うことができません. ファイルがテキスト 形式かどうかは, Put File で UNIX に転送されるファイルのデフォルト名称の末尾に .txt がつくかどうかで判定できます (非テキスト形式の場合は, デフォルトファイル名の末尾に .bin がつきます).

- Fetch を使って UNIX から 転送したテキストファイルは, デフォルトで Microsoft Word の形式になります. これを変更したい場合は, Customize ⇒ Preferences ⇒ Download ⇒Edit text files with を選択して, テキストファイルの形式を変更して下さい.

- Fetch を利用して Anonymous FTP サーバーからフリーソフトを取り寄せることができます. 例えば ftp.genome.ad.jp から取り寄せる場合は File ⇒ Open Shortcuts ⇒ ftp.genome.ad.jp を選択し, OK ボタンを選択して下さい. 他の FTP サーバーにアクセスしたい場合は, サーバー名を編集して下さい.

  > ftp.genome.ad.jp が選択できない場合は, Fetch をインストールした人に相談して下さい.

- Fetch のその他の機能については, Online Manual を参照して下さい. Online Manual は Window ⇒ Fetch Help で表示されます.

5 UNIX プログラム出力結果のグラフィックス表示

グラフィックスをサポートする UNIX 上のプログラム (たとえば DotPlot 出力プログラム) を利用する場合, Macintosh 上でグラフィックスを表示できれば便利です. ここでは Macintosh 上で, UNIX プログラムのグラフィックス出力結果を確認する方法の概要を述べます. 詳しくはそれぞれのソフトウェアに附属するマニュアルを参照して下さい.

5.1 グラフィックス出力結果をプリントアウトする

グラフィックスをサポートする UNIX 上のプログラムの大部分は, 出力結果を PostScript ファイルの形で Disk 上に出力する機能を持っています. LaserWriterNTXJ などの PostScript プリンタがあれば, この PostScript ファイルをプリンタ出力することができます.

方法は,

1. UNIX 上のプログラムで PostScript ファイルを UNIX マシンのディスクに出力する.
2. Fetch を用いて, PostScript ファイルを Macintosh に転送する.
3. showpage を起動して PostScript ファイルを印刷する.

> showpage は, HGC からの配布ディスクに入っています. Eudora および Fetch をインストールした人に確認して下さい.

5.2 グラフィックス出力結果を画面上で確認する

有料ソフトウェアを用いれば, PostScript ファイルの内容を画面上で確認することが可能です. また, PostScript 非対応のプリンタに PostScript ファイルを出力することもできます. このためには,

- TScript
- Freedom of Press

等の有料ソフトウェアを購入する必要があります.

上記ソフトウェアの購入については, Macintosh を取り扱っている代理店に尋ねて下さい.

> なお, フリーソフトウェアの ghostscript でも, グラフィックス出力結果を画面上に表示することが可能です. しかし, インストール, 操作法とも面倒ですので, ここでは取り上げません.

5.3 グラフィックスを直接 Macintosh の画面に出力する

X Window System に対応したソフトウェア (有料) を用いれば, Macintosh の画面上に UNIX ワークステーションのコンソールと同様のグラフィックス表示を直接行なうことが可能です (Quanta 等の IRIS コンソール上でしか利用できないソフトウェアを除く).

X Window System ソフトウェアには,

- eXodus
- MacX

等があります. Macintosh 上で X Window System ソフトウェアを快適に利用するためには,

- 最低 8MB 以上 (16MB 以上推奨) のメモリー
- 13inch 以上 (?) の大きな画面のモニター (白黒可)
- 高速な CPU(II si 以上 ?)

が必要です. また, X Window System 対応ソフトウェアのインストールは比較的複雑ですので注意が必要です.